

Vol.108

Vol.108 (2026年 秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM事例・知識 … 3

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 …… 5

Activities / 支部活動 …… 8

PM Calendar / PMカレンダー …… 19

Fact Database / データベース …… 20

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆ PMI 日本支部 セミナープログラム主催 PMI Japan Festa 2026 のご案内 3

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

- ・ 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 5

Activities / 支部活動

- ◆ PMI日本フォーラム2026 結果報告 8
- ◆ PMI関西 brunch × IIBA × SVL コラボイベント
未来の社会・ビジネス価値を描くための「変革」と「共創」のあり方
～ワクワクを、みんなで語りあおう～ 結果報告 14
PMI日本支部 関西 brunch 運営委員会 代表 伊達 渡

PM Calendar / PM カレンダー 19

- ・ PMI 日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 20

PMI 日本支部ニュースレター Vol.108 2026年9月発行

編集・発行：PMI 日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

◆ 商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

PMI 日本支部 セミナープログラム主催 PMI Japan Festa 2026 のご案内



公式サイト <https://pmi-japan.eventos.tokyo/web/portal/426/event/17170>

2026年11月14日・11月15日に
「PMI Japan Festa 2026」を開催します。

(オンデマンド配信は12月20日まで)

今年のテーマは、

「管理を越えろ！～ヒト・技術・社会を『活用』するプロジェクトマネジメント～」

日々PMとして活動する中で、我々はさまざまな課題や壁に直面しています。生成AIからAIエージェントへと技術が劇的に進化し、ビジネス環境も目まぐるしく変化する激動の昨今、私たちPMの業務そのものを見直す時が来ています。これまでのマネジメントを「管理（Control）」と捉えるだけでは、もはや人は動かず、イノベーションも生まれません。

私たちは今、「管理」という狭い定義を超え、さらに高みを目指して「活用（Utilization）」へと踏み込むべき時を迎えているのではないのでしょうか。それはリスクに備えて手綱を締め付けるのではなく、激動さえも推進力に変え、これまで得た資産を巧みに活かす姿勢への転換です。

- ・ヒト：相手の「感情・信念」を深く理解し、対立さえも推進力に変える
- ・技術：AI等の革新を恐れず、日本人の強みである「きめ細やかさ」と融合させる
- ・社会：変化する情勢をリスクとして管理するだけでなく、新たな一歩への「機会」と捉える

現場の壁に悩み、試行錯誤してきたPMの仲間たちが、手法の限界を、知恵と人間力で突破する。そうした本来のマネジメントを実践するリーダーへのリスクリング（アップデート）の場とすべく、今年のテーマを設定しました。

今回のFesta 2026でも、多様な事例や実践知を共有し、明日から使えるヒントを皆さまと共に探っていきます。新しい発見とつながりを、ぜひ実感してください。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI Japan Festa 2026のご案内

PMI Japan Festa 2026

「管理を越えろ！～ヒト・技術・社会を『活用』するプロジェクトマネジメント～」

開催形式 オンライン配信（リアルタイム、オンデマンド）、初日（11月14日）のみ会場開催

会場所在地 アキバプラザ
〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフトアキバプラザ
アクセス：<https://www.fsi.co.jp/akibaplaza/map.html>

日時と内容	お名前	所属	講演テーマ
11月14日(土) 会場開催 +リモート	神戸 勝啓 様	川崎重工株式会社	世界初の国際水素サプライチェーン構築プロジェクトから見えるもの ～現状を打開する発想転換～
	山本 希 様	特定非営利活動法人 みしまびと	「関わりしろ」が、人を動かす。ー多様な個の熱量を地域の力に変えるプロジェクトマネジメントー
	施井 泰平 様	スタートバーン株式会社	(調整中)
	品川 皓亮 様	株式会社COTEN	「追われる仕事」から「本質を射抜く仕事」へ ～仕事で使える哲学的思考の第一歩～
	駒田 博紀 様	Yellow Monkey Brewing 株式会社	管理を超えて、人の想いでプロジェクトを動かす。 ー On Japan立ち上げからYMBへ、地域・挑戦・変化の実践ー
11月15日(日) リモート	小坂 康之 様	『宇宙食になったサバ缶』 著者	「さばの缶づめ、宇宙へ行く」～子どもたちが開発製造したサバ缶が宇宙食になった物語と教育改革～
	高田 将平 様	コンピュータサイエンス 研究所	AIで「見えない」を支える ー視覚障がい者の移動を変えるEyeNavi、社会実装への挑戦ー
	PM Award受賞者	(10月下旬発表)	ー
	PM Award受賞者	(10月下旬発表)	ー
	長野 麻子 様	株式会社モリアゲ	日本の森をモリアゲよう！
	山田 美緒 様	KISEKI ltd	思い通りにいかないから、面白い ールワンダで起業して見つけたリーダーの思考法ー

参加者区分	初日は会場で聴講し2日目以降はリモート		全日リモートで聴講
	交流会 参加 [定員20名]	交流会 不参加 [定員40名]	[定員なし]
部会アクティブメンバー	14,000円	12,000円	12,000円
PMI日本支部退職者会員	18,000円	16,000円	16,000円
PMI日本支部会員	19,000円	17,000円	17,000円
法人スポンサー企業社員	22,000円	20,000円	20,000円
一般	26,000円	24,000円	24,000円

(注1) 表記のいずれのチケットでも、11月14日・15日のリモート聴講および、12月20日までのオンデマンド聴講が可能です。

(注2) 会場で聴講し交流会にも参加される場合は交流会費（2,000円）を加算しています。

(注3) 会場参加のみ、交流会参加のみ、オンデマンド聴講のみの料金設定はありません。

(注4) 「退職者会員」としてチケットを購入いただくには、PMI本部サイトでのMembershipの項目が「退職者会員＝Retiree」になっている必要があります。PMIに5年連続でIndividual会員となっている方が正式退職後にPMI本部にリクエスト（カスタマーケア経由で依頼）し、審査の結果、条件を満たしていた場合に「Retiree」に変更されます。

▶ <https://www.pmi.org/membership/faq>

(注5) 「部会活動アクティブメンバー」とは、PMI日本支部の「部会」、「法人スポンサースタディ・グループ」、「コミュニティ」から事務局に提出いただいた「アクティブ・メンバー」リストに掲載されている支部会員の方が対象となります。

まだ、日本支部会員でない方は、是非この機会に日本支部会員にご加入の上、参加ください。

お問合せ先 festa2026@pmi-japan.net

Stakeholders／法人スポンサー紹介

富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

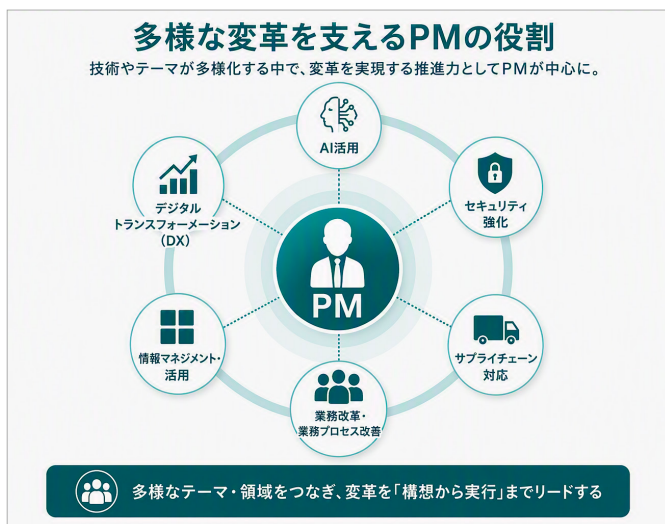


多様な変革を支えるために

富士フイルムビジネスイノベーションジャパンの プロジェクトマネジメント力

近年、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。デジタル技術の進展、サプライチェーンを取り巻くリスクへの対応、人材不足への対策、そしてAI活用による業務変革など、多くの企業がさまざまな変革に取り組んでいます。

しかし、優れた構想や技術があっても、それだけでは変革は実現できません。関係者の認識をそろえ、計画を具体化し、多様な課題を乗り越えながら最後までやり切る力が必要です。その中心となるのがプロジェクトマネジメントです。



当社は、ドキュメントソリューションを原点としながら、業務改革、AI活用、サプライチェーン・セキュリティへの対応など、幅広い領域でお客様の変革を支援してきました。

私たちが携わる案件は業界もテーマも規模もさまざまです。しかし共通しているのは、複雑な課題を整理し、多様な関係

者を巻き込みながら、構想を実行へとつなげていくことが求められる点です。

こうした多様なプロジェクトを通じて得られた実践知は、単なる個人の経験にとどまりません。当社では、それらの知見を組織全体で共有し、組織のノウハウとして蓄積することで、より多くのお客様の変革に生かしてきました。

多様な経験から生まれる実践知

当社が携わるプロジェクトは、業界やテーマ、規模もさまざまです。一つとして同じプロジェクトはありません。しかし領域が異なっても、プロジェクトを成功に導くための本質は共通しています。

目的を明確にすること。

関係者の認識を揃えること。

リスクを先回りして管理すること。

そして最後までやり遂げること。

私たちは多様なプロジェクト経験を通じて、こうした成功のための実践知を蓄積してきました。そして、その知見を個別の案件だけでなく組織全体へ展開することで、より高い価値の提供を目指しています。

また、私たちはこうした知見を個人の経験にとどめるのではなく、組織全体の力へと転換することを重視しています。プロジェクトごとに得られた教訓を共有しながら、組織として再現性のある強みへと磨き上げています。

PM力を個人の力から組織の力へ

プロジェクトマネジメントは、一部の優秀なプロジェクトマネージャー（PM）だけに依存するものではありません。

変革プロジェクトの現場では、PMだけでなく、システムエンジニア（SE）やコンサルタント、営業、ビジネス部門を含む多くの関係者が同じ方向を向きながら推進していくことが求められます。

そのため当社では、プロジェクトマネージャーの育成だけでなく、より多くの社員がプロジェクトマネジメントの考え方を理解し、実践できる組織づくりに取り組んでいます。

入社5年目の社員を対象とした研修では、プロジェクトマ

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

ネジメントの基礎を集合学習やグループワークを通じて学び、プロジェクトマネジメントの全体像を捉える視点を養います。また、その後も見積プロセス、進捗管理、リスクマネジメント、レビュー運用など、実際のプロジェクト運営に欠かせないテーマごとに継続的な学習機会を提供しています。

特徴的なのは、これらの教育を現場で活躍するプロジェクトマネージャー自身が講師として担っていることです。日々お客様と向き合いながらプロジェクトを推進しているPMが、自らの経験や教訓を次世代へ伝えることで、知識の習得だけでなく、実践に根差した学びを提供しています。実際の現場で起きた課題や意思決定の背景を共有することで、受講者はプロジェクトマネジメントを「知る」だけでなく、「使える」スキルとして身につけることができます。

こうした取り組みにより、プロジェクトの規模や領域が異なっても、関係者が同じ視点で課題を捉え、リスクを共有し、適切な意思決定を行うための土台が組織内に形成されています。その結果、部門や専門分野の枠を越えた協働を促進し、お客様ごとに異なる課題や変革テーマに対しても、安定した品質でソリューションを提供できる力につながっています。PMIの知識体系や考え方も活用しながら、プロジェクトを成功へ導くためのスキルを磨き、実践経験を重ねるとともに、実践から得られる知見の蓄積と活用を進めています。

変革の実現に貢献するために

当社が提供する価値は、特定の商品や技術の提供にとどまりません。

私たちが目指しているのは、お客様の変革を実現することです。

変革のテーマや手段は時代とともに変わります。しかし、お客様の目指す姿を実現するために、人と組織をつなぎ、プロジェクトを前に進めていくプロジェクトマネジメントの重要性はこれからも変わらないと考えています。

今後も当社は、多様な領域で培った実践知とプロジェクトマネジメント力を活かし、お客様の変革実現に貢献するとともに、プロジェクトマネジメントの価値向上にも取り組んでいきます。

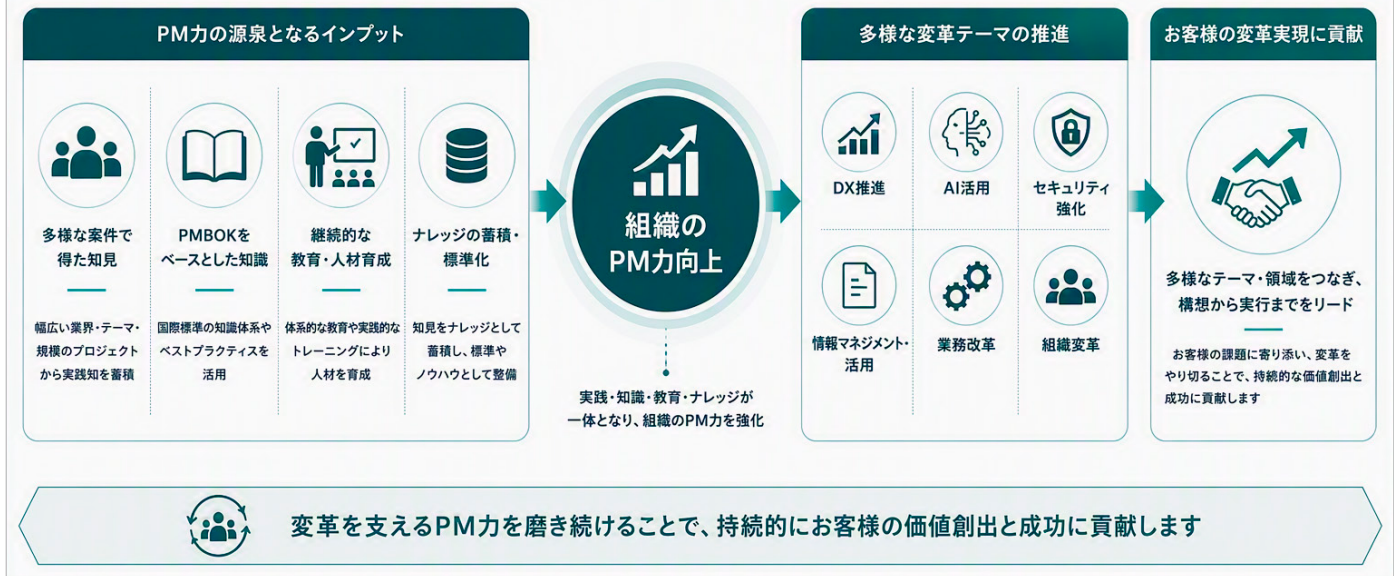


Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

PM力を強化し、お客様の变革実現に貢献

実践知と体系知を組織力へ昇華し、多様な变革テーマの実現を支援



社名：富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
 住所：東京都江東区豊洲2-2-1 豊洲ベイサイドクロスタワー
 HP：<https://www.fujifilm.com/fb/ja>

Activities / 支部活動

PMI 日本フォーラム 2026 結果報告



PMI日本フォーラム2026

『持続価値を生むリーダーシップ』～ Value-Sustaining Leadership ～

2026年 7月11日（土）～8月31日（月）

会場開催 7月11日（土）

リアルタイム配信 7月11日、12日

オンデマンド配信 8月31日まで

日程 2026年7月11日（土）～8月31日（月）

テーマ 『持続価値を生むリーダーシップ』
～ Value-Sustaining Leadership ～

【基調・招待講演】 7月11日（土）、12日（日）

- 講演形態
- 会場での開催 : 7月11日（土）
 - リアルタイム配信 : 7月11日（土）、12日（日）
 - オンデマンド配信 : 7月13日（月）～8月31日（月）

【部会・スポンサー・アカデミック講演】

- オンデマンド配信 :
2026年7月13日（月）～8月31日（月）

全80セッション

講演数	○ 基調・招待講演	12
	○ 研究報告講演：部会	51
	○ : 法人スポンサー SG	2
	○ : スポンサー企業様	7
	○ アカデミック講演	8

【浦田会長 挨拶文より】

私たちは今、AIの進展、脱炭素化、地政学的変動、人口動態の変化など、かつてない複雑で不確実な環境の中にあります。こうした時代において、プロジェクトマネジメントに求められる役割も、単なる計画達成や成果創出にとどまらず、社会・経済・人材・環境に対して長期的な価値を創り続けることへと広がっています。

PMIが提唱する Value Realization やサステナブル・トランスフォーメーションは、こうした変化の本質を捉え、プロジェクトを通じて価値を実現し続けるための新たな視座を示しています。本フォーラムでは、その中核を担う「リーダーシップ」に焦点を当て、多様な実践知と対話を通じて、これからのプロジェクト・マネジャー像を共に探求してまいります。

正解のない時代だからこそ、変化に対応するだけでなく、変化を機会へと転換し、持続可能な未来を導くリーダーシップが重要です。倫理観、包摂性、共創力を備えたリーダーの役割は、これまで以上に高まっています。

本フォーラムが、参加される皆さまにとって、新たな視点と実践への示唆を得る場となり、未来に向けた価値創造の一歩となることを願っております。

Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2026 結果報告

ご登壇いただく講演者の皆さま、ご支援いただくスポンサーの皆さま、そして準備・運営に尽力いただく会員ボランティアの皆さまに心より感謝申し上げます。

PMI 日本フォーラムが、持続可能な未来に向けた学びと共創の場となることを確信し、皆さまとともに新たなリーダーシップのあり方を考える機会を共有できることを期待しております。

◆ 基調・招待講演（初日は会場、二日目はリモート）

まず、PMI ガバナンス委員会の委員長である Teresa A. Knudson 氏から「From Strategy to Impact: Global Trends Shaping the Future of Project Success」と題し、基調講演がありました。その後、デジタル庁からは約18万人の政府職員を対象とするガバメント AI「源内」の大規模実証の紹介を皮切りに、AI時代に成果物を超えて持続的な価値を生み出すリーダーシップ、「個の時代」に自ら変化を設計する自己変態力、共感資本による持続価値の創出など、多様な視点から講演をいただきました。また、共感コミュニケーションやデータサイエンス・AIによる価値創出、経験則からモデルベースへのプロジェクト変革、AI時代の組織変革、事業承継と企業価値向上、「攻め」のAIガバナンス、さらに多文化共生とAI協働をテーマとした講演など、幅広い知見が示されま



した。12講演を通じて、AI・デジタル技術の活用にとどまらず、人・組織・社会との関係性を再構築しながら、プロジェクトを持続的な価値へと結び付けていく、これからのプロジェクトマネジメントの方向性が提示されました。

なお、2025年に引き続き、英語セッションにあたっては、聴講者ご自身のスマホに翻訳結果が随時表示され、イヤホンを通して翻訳音声も同時に聴ける「ポケトーク」を導入し、好評でした。

◆ スポンサー展示ブース



6年ぶりに2025年に講演会場のホワイエに設けたスポンサー様による展示ブースには、2026年も3社から出展いただき、自社事業をアピールしていただきました。

今回は、景品付きの「名刺交換スタンプラリー」を並行実施したことで、より多くの方々にブースを訪問いただくことが出来ました。

また、オンラインによる展示は4社に実施いただきました。

【スポンサー展示】

(株)SHIFT 様、(株)MSOL Digital 様、PM アソシエイツ(株) 様

【オンラインに展示】

(株)マネジメントソリューションズ 様、リミー 様、フラッグス(株) 様、(株)パーソル総合研究所 様



スタンプラリー景品の扇子

◆ ランチミーティング

2019年以来、7年ぶりに初日の昼休みの時間帯に小会議室にて「ランチミーティング」を設け、支部からはお弁当と

Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2026 結果報告

お茶をご用意しました。60名の方々にご予約いただき、会場は満員・盛況となりました。



【ランチミーティング 登壇】

株式会社ITプレナズジャパン・アジアパシフィック
最上千佳子 様

◆ アカデミック講演 (全てオンデマンド配信)

アカデミック講演では、「持続価値を生み出すプロジェクト型教育とは？ PBLからPM教育への連続性を考える」を共通テーマに、初等中等教育から高等教育、さらに社会実装へとつながるプロジェクト型学習の可能性が紹介されました。STEM Racingや中学校でのPM教育、ロボット開発を核としたSTEAM教育、産学連携による社会課題解決など、学生が実際のプロジェクトを通じて問題発見力や課題解決力、リーダーシップを身につける実践事例が報告されました。また、生成AIを活用したアプリ開発や、AIを基盤とするシステムにおけるアジャイルと計画駆動型PMの使い分け、学習コミュニティにおける帰属意識の研究、アントレプレナーシップ教育や技術者倫理教育など、AI・技術・人間の関係を考える研究も発表されました。教育を「知識の習得」ととどめず、社会との接点の中で価値を創造し続ける人材を育てる場として捉える、多彩な研究成果が示されました。

◆ 研究報告講演 (全てオンデマンド配信)

研究報告講演では、AI・デジタル技術の進展を踏まえたプロジェクトマネジメントの新たな可能性をはじめ、PMBOK®ガイド第8版における「価値実現」や原理原則とプロセスの関係、プロジェクト・プログラム・ポートフォリオマネジメント (PPPM) の実践など、多様な研究成果が発表されました。特にAI関連では、LLMやAIエージェントの限界と可能性、AIを活用したリスクマネジメント、PM業務へのAI適用方法、AI時代のビジネスアナリシスなど、AIと人間の役割分担を考察する講演が数多く見られました。また、アジャイルと予測型の使い分け、行政DX、ステークホルダーマネジメント、リーダーシップ、人間力、キャリア自律など、現場の課題に即した研究も紹介されました。理論の紹介にとどまらず、実践事例や検証結果を通じて、変化の激しい環境で持続的な価値を生み出すためのPMの役割と実践知が幅広く示されました。

◆ スポンサー講演 (全てオンデマンド配信)

協賛企業様からは7編の講演があり、プロジェクトマネジメントの現場で直面する課題を題材に、企業・組織における実践的な取り組みや具体的な解決策が紹介されました。「成果物」から「価値実現」へと変化するPMの役割をはじめ、ステークホルダーとの信頼関係を構築するための影響力、理論と実践を結び付ける方法、PMOによる標準化とAI活用など、多様な視点から講演が行われました。また、指示するリーダーから「場」を創るリーダーへの転換、AI時代に求められる知識と非認知能力を組み合わせるPM教育、入社後の定着を支える組織マネジメント、自走するチームづくりなど、人と組織に焦点を当てたテーマも取り上げられました。さらに、AIエージェントを活用したPMISの進化や、変更が常態化するプロジェクトの再設計など、最新技術と現場課題を結び付けた実践的な講演が展開され、参加者に具体的な改善のヒントが提供されました。

Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2026 結果報告

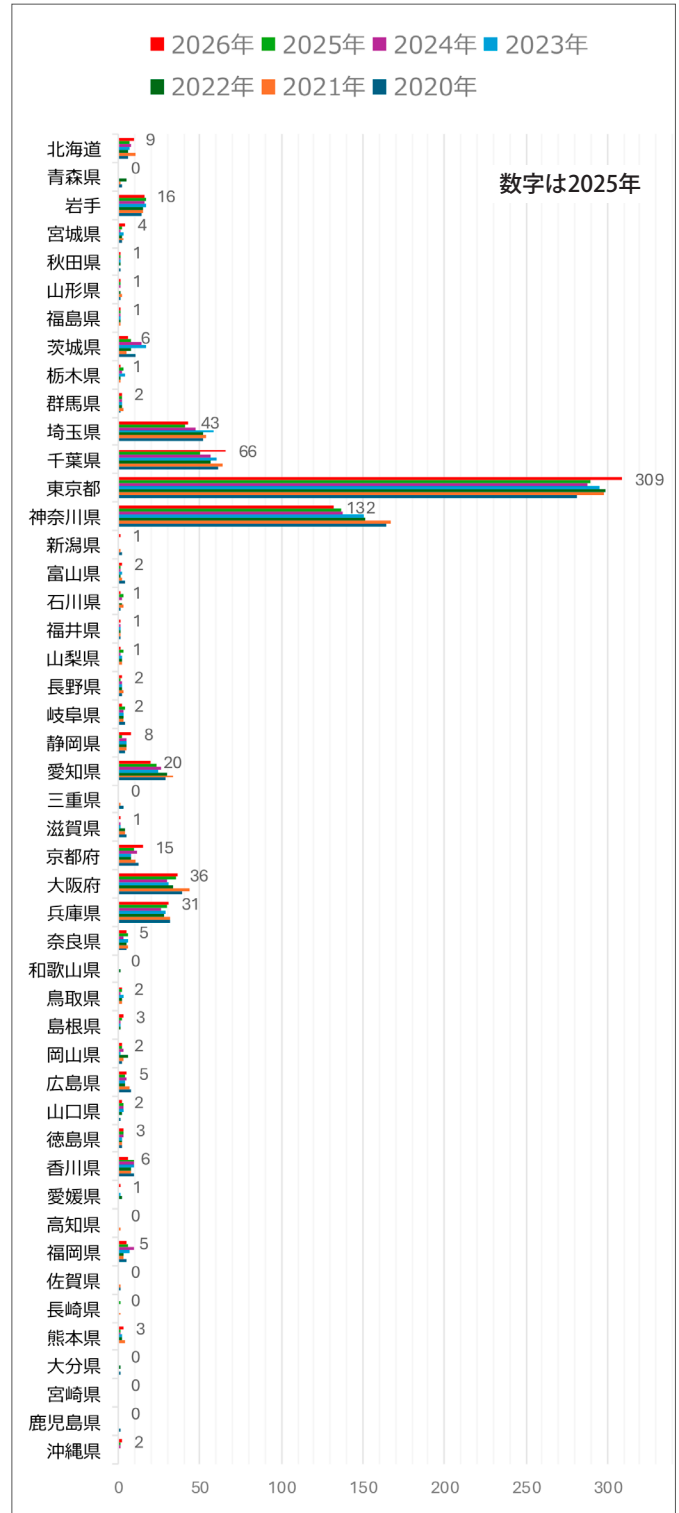
◆ 受講規模

全講演のオンデマンド聴講期間を昨年同様に8月31日まで設けた結果、最終的には1,000名を超える方々から受講申し込みをいただきました。

- 日本支部会員 518名
 - アクティブメンバー 180名
 - 法人スポンサー企業社員 97名
 - 一般の方 105名
- その他 理事・監事、ご招待者など

県別に見た受講地域は例年と同じ傾向でした。関東圏が圧倒的に多いものの、北海道から九州・沖縄に至るまで多くの地域からの聴講いただきました。また、海外からはバングラデシュ、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、インド、アメリカ合衆国の6ヶ国から聴講がありました。

図1 受講地別人数



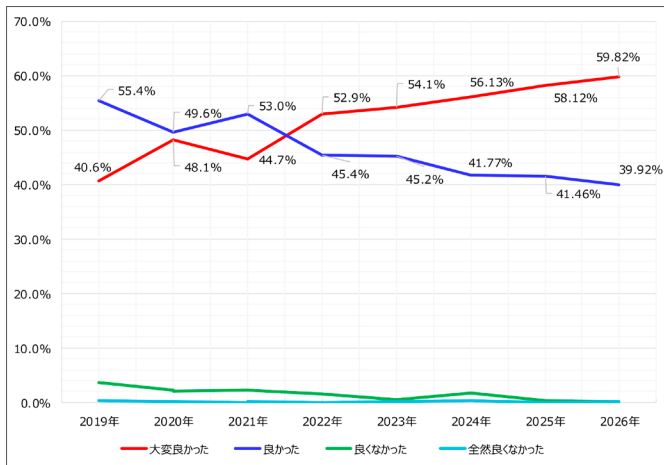
Activities/支部活動

■PMI日本フォーラム2026 結果報告

◆アンケート（受講完了報告）結果

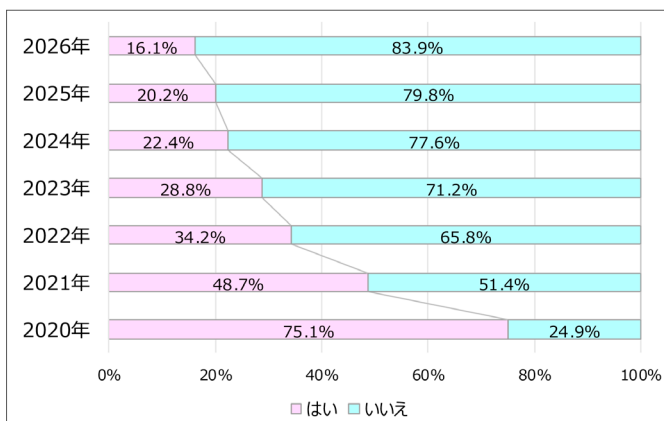
総合的には「大変良かった」59.8%、「良かった」39.9%で計99.7%となり、極めて高い評価をいただきました。特に「大変良かった」は2021年以降漸増傾向にあります。

図2 総合評価



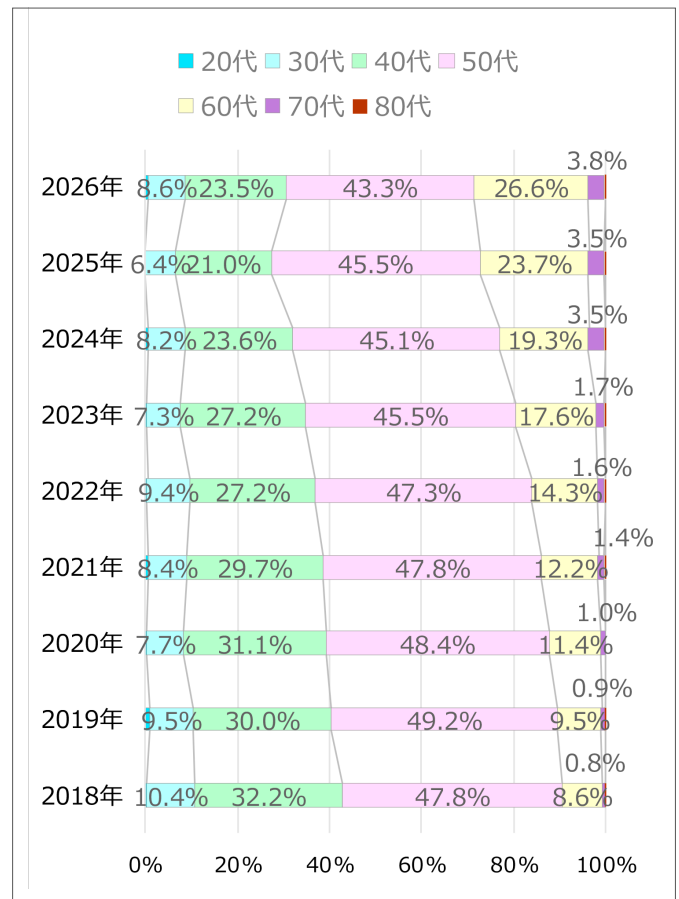
また、2020年から始めたオンデマンド配信は聴講いただく方が毎年増加しています。そのため、リアルタイム配信を聴講する方は漸減傾向にあり、2025年は全体の2割を下回りました。

図3 リアルタイム配信聴講の有無



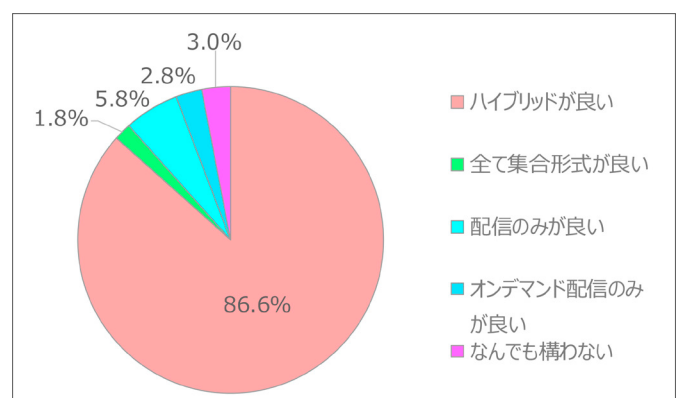
参加者の年齢構成からは、参加者層の高年齢化がますます進んでいることが伺えますが、2026年は30代・40代の方々のシェアが伸びたことが特筆されます。

図4 参加者の年齢層の割合



今後のフォーラムの開催方式については、ハイブリッド形式を望む声が圧倒的でした。

図5 今後の開催方式



Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2026 結果報告



今年の交流会では登壇者に「酒造り唄」をご披露いただき鏡割りを行うなど、大盛況でした。

◆ 終わりに

2024年度以降、ハイブリッド形式の開催により、会場で直接交わす言葉の熱量を感じつつ、リモートにより遠隔地から参加いただける妙味も兼ね備えた大イベントとして定着しました。

2026年は展示スポンサーブースで「名刺交換スタンプラリー」を並行実施し一層の賑わいを創出するとともに、7年ぶりとなるランチセッションの復活など、演出にも趣向を凝らしました。

皆さまからいただいたご意見等も参考にしながら、来年もより一層魅力的なイベントにすべく検討を進めてまいりますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。

PMI 関西ブランチ × IIBA × SVL コラボイベント 未来の社会・ビジネス価値を描くための「変革」と「共創」のあり方 ～ワクワクを、みんなで語りあおう～ 結果報告

PMI 日本支部 関西ブランチ 運営委員会 代表 伊達 渡

開催日時：2026年7月25日(土) 13:30～16:40

(交流会 17:00～19:00)

開催場所：マイドームおおさか 8F 第6会議室

+ オンライン (Zoom) 配信

主 催：PMI 日本支部 関西ブランチ

協 賛：IIBA 日本支部 / Social Value Lab

セミナー内容：

〈キックオフ〉

関西ブランチ 運営委員 秋山 肇 氏

〈IIBA 講演〉

経産省・IPA と IIBA が考えるビジネス変革人材
～デジタルスキル標準 Ver.2.0 と BABOK から考える～

IIBA 日本支部 理事 塩田 宏治 氏

〈SVL 講演〉

社会価値を高める持続的なビジネス創りを行うには
Social Value Lab 設立メンバー / 株式会社匠 Business
Place 代表取締役会長 萩本 順三 氏

〈PMI 講演〉

漸近する知能爆発時代、
包摂的イノベーションを立ち上げよう
～CPMAI・PMBOK 8th・『どこの話?』漸近未来マップ～
関西ブランチ 副代表 大西 徹 氏

〈3団体パネルディスカッション〉

未来の社会・ビジネス価値を描くための「変革」と「共創」
パネリスト：塩田 宏治 氏 / 萩本 順三 氏 / 大西 徹 氏
ファシリテーター：伊達 渡 (関西ブランチ 運営委員会代表)

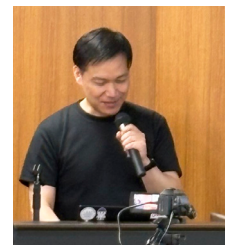
〈交流会〉



IIBA 塩田 宏治 氏



SVL 萩本 順三 氏



PMI 大西 徹 氏

1. 企画の背景と思い — なぜ、この3団体なのか

DX、イノベーション——企業も公共も自治体も「新たな価値を産み出さないといけない」と言われ続けています。ところが現場では、トップの号令を受けてPoC（概念実証）には取り組むものの、明確な成果に届かないまま多額の投資が失敗に終わる、という話をよく耳にします。私たちはこの手詰まりを、プロジェクトマネジメントだけの問題ではなく、「そもそも何が課題なのか」「どんな価値を目指すのか」が描けていないことから生じているのではないかと考えました。

新たな価値を産み出すには、相応の「手順（エコシステム）」があります。ビジネスアナリシスで課題を明確にし、ビジネス変革を担う人を定義する（IIBA）。目指す価値と実現する姿を、体系化されたメソッドで具体的にデザインする（SVL・匠 Method）。そして、変化の激しい時代に、それをプロジェクトとしての確に着地させる（PMI）。この3つがそろって初めて変革が成功する。そう考えて、ビジネスアナリシスの知識体系BABOKを持つIIBA日本支部と、社会価値と事業価値の共創を掲げる Social Value Lab (SVL) にお声がけし、3団体の知見が“点”ではなく“線”でつながる場として、初めてのコラボイベントを企画しました。

Activities / 支部活動

■PMI 関西ブランチ × IIBA × SVL コラボイベント 未来の社会・ビジネス価値を描くための「変革」と「共創」のあり方
～ワクワクを、みんなで語りあおう～ 結果報告

2. 企画から準備へ

登壇者との調整を経て一般募集を開始し、告知は主催の関西ブランチに加え、協賛のIIBA日本支部・SVLにもご協力いただき、3団体それぞれのコミュニティに案内を届けることができました。企画の“肝”である3団体パネルディスカッションは、3つの講演を「課題を見極める → 価値を描く → 変革を回す」という価値創造の1本の流れとして捉え直し、その“継ぎ目”を登壇者に語っていただく設計としました。

事前の打ち合わせでテーマを以下の2つに絞り込み、残りの問いは当日会場と配信視聴者から募る形にしました。

**問1 デジタル変革・ビジネス変革が、うまく進まない。
うまくいかせるには、何が大事？**

問2 AIが普及し、AIがすべてをこなす時代。人間は本当に何をする？

3. コラボイベント当日の様子と概要

当日は、現地19名・オンライン26名、交流会14名でした。奇しくも7月25日は大阪・天神祭の本宮の日。「花火を見ずにここに集まっていた奇跡のイベント」という司会の一言から、当日は始まりました。それでは、当日の流れに沿って振り返っていきます。

(1) キックオフ：VUCAの時代に、なぜ3団体なのか

司会・キックオフは、関西ブランチ運営委員の秋山肇氏が務めました。「構想半年、やっと今日実現しました」と切り出し、生成AI・エージェントAI・フィジカルAIといった技術の急速な進化、人生100年時代と生産年齢人口の減少、気候変動や物価高騰まで、「変動を身近に感じまくる時代」＝大VUCA時代であることを確認。DXの号令はトップから出るものの、現場ではPoCを回しながら明確な成果が出ない現実に触れ、「新しい価値を生み出して成功させるには手順（エコシステム）が必要」と、3団体で開催する意図を語りました。「AIの時代だからこそ、私たち人間が何を担い、誰とどんな価値を創るのか。今日集まった全員で、ワクワクしながら未来を描いていきましょう」。

(2) IIBA 講演：経産省・IPAとIIBAが考えるビジネス変革人材

経済産業省・IPAの「ビジネスアーキテクチャ人材の育成に関するタスクフォース」委員も務める塩田氏は、「DXは技術の話ではなく、本質的にはビジネス変革の話」と確認したうえで、ビジネス変革固有の難しさを挙げました。将来像を

見通しにくい、成果が最初から確定できない、これまで一緒に働いたことのないステークホルダーと同じプロジェクトを組む、固定化した利害が壊されて対立が先鋭化しやすい——だからこそ、従来型のチェンジプロジェクトとは違う「ビジネス変革推進人材」が必要になるという整理です。

それが2026年4月リリースのデジタルスキル標準Ver.2.0の「ビジネスアーキテクト」で、戦略に近いところでどんなプロジェクトを立ち上げるかを組み立てる（狭義の）ビジネスアーキテクト、ねらった成果が出るところまで責任を持つプロダクトマネジャー、企画・要件定義・ソリューションの見極めを受け持つビジネスアナリストの3つに細分化されました。塩田氏が力を込めたのは、この3つがビジネス側と開発側の「あいだ」に立ち、権限を持たないまま両者をつないで変革を前に進める役割だということ、そしてBABOKがその共通のファンデーションスキルになりつつあるということです。AI時代については、生成AIが要件定義の下書きまで書く一方で、「AIはすべてのコンテキストを持っていない。最適解を見つけるには、人間が最終的に意思決定をしていく必要がある」と語り、ビジネスアナリストはより上流（意思決定の支援）と、より開発側（プロトタイプ・開発エージェントのオーケストレーション）の両方向へ役割をシフトしていく、という見立てを示しました。

(3) SVL 講演：社会価値を高める持続的なビジネス創りを行うには

オブジェクト指向方法論「Drop」、「要求開発」を経て「匠Method」を開発してきた萩本氏には、東京からお越しいただきました。講演の柱は、匠Methodの最上位に置かれる「知・情・意」思考です。2017年にたどり着いたConcept・Design・Actionの3分類を、2020年にカントの「知・情・意」を知って改名したもので、「意」は未来に向けた強い思い、「情」は関わる人にどんな価値をもたらすかの宣言、「知」は筋道を立てて考える力にあたります。日本人は徹底して働く一方で何のためにやっているのかが曖昧になりやすく、「意」と「情」を仕事の外のものだと思い込んでいる人が多い。だからこそ、「この『意』と『情』を取り戻す、再確認する、発信する。つまりは『自分を取り戻す』ということです」。芸術作品が、作者がどんな時に作ったのかが分かるといっそう美しく感じられるように、製品も哲学が宣言され、デザインがそれに見合い、エンジニアリングとかみ合ってはじめて魅力を持つ、という説明も腑に落ちるものでした。

Activities / 支部活動

■PMI 関西ブランチ × IIBA × SVL コラボイベント 未来の社会・ビジネス価値を描くための「変革」と「共創」のあり方
～ワクワクを、みんなで語りあおう～ 結果報告

実践では、ステークホルダーモデルで関わる人を今と未来から書き出し（実プロジェクトでは100～150に達することも）、その人がプロダクトの成功した5年後・10年後に「何によってどう嬉しいのか」を、その人の立場に立ち、その人が語る言葉として価値分析モデルに記述します。箇条書きは認めず「魅力的な言葉にしてください」と求めるのは、その一文がそのまま手段の検証になるからです。「意」の側では価値デザインモデルにビジョンとコンセプトを書き、両者をつないで要求分析ツリー（知）へ落とし込むので、価値から活動まで一気通貫につながります。戦略ではなく価値から入ると視野が広がり、「ウキウキ・ワクワクしながらみんなでやれる。だから大学生でも平気でやれちゃいます」。最後に、匠Methodの価値・要求・活動がBABOKの「チェンジ」「ソリューション」「ニーズ」と驚くほど重なり、PMBOK 7thの12原則のうち5つが共通することにも触れ、「結局、人間の考えることは一緒なんだな」という言葉で、3団体のつながりを先取りしていただきました。

(4) PMI講演：漸近する知能爆発時代、

包摂的イノベーションを立ち上げよう

化学メーカーの研究者からIT業界に転じ、現在はサービス開発・組織開発・BPR（業務改革）の伴走支援を手掛ける大西氏は、「塩田さんには独立して最初の仕事をつないでいただいた。今日は2人の師匠の前で話すので緊張しています」と切り出し、3つのテーマを語りました。1つ目はPMI公式のAI実装フレームワーク「CPMAI」。ビジネス理解（そもそもAIを使うべきか、投資に見合うか）から、データ理解・データ準備・モデル開発・モデル評価・モデル運用の6フェーズを回し、各フェーズの間にGo/No-Goのゲートを置いて、倫理やガバナンスもプロセスに組み込みます。自身も試験に1度落ちて2回目で合格したという体験談を交え、「ルールやフレームワークなしで進めると、野良エージェントが乱立しかねません」。

2つ目はPMBOK 8th。価値を届けることこそプロジェクトの目指す姿だと冒頭で定義され、12原則は6原則に、価値は有形・無形（従業員のウェルビーイングも）に広がり、サステナビリティは「回避>最小化>回復>補償」の順で判断する、という新しい記述を紹介しました。

3つ目は後半の「試論」です。山口周氏の「サステナビリティは経営の脇ではなく直列」という言葉を引き、経営の手本とされながら解体されたGEと、事業の軸を環境・脱炭素に移

して時価総額を伸ばしたシーメンスを対比。同じ「AIの話」でも座標が違うことを整理する『『どこの話?』漸近未来マップ』（縦：抽象～具体、横：今～2033年頃）、AI 2027/AI 2040のシナリオ、カルダシェフ・スケールまで一気に駆け抜け、リスクを見る立場から最も恐れているものとして「富の分配がうまくいかず、社会が分断されること」を挙げました。「分断が生じると包摂的イノベーションはできない。この先どう選ぶかは、一つひとつのプロジェクトの判断で決まっていく」という言葉を、続くパネルへのバトンとして残していただきました。

(5) 3団体パネルディスカッション:3つの講演は、つながっている!

ファシリテーターは運営委員会代表の伊達が務めました。冒頭、3つの講演を「課題を見極める（IIBA）→ 価値を描く（SVL）→ 変革を回す（PMI）」という価値創造の1本の流れとして1枚に整理し（「AIにまとめさせたら、知はあるけど情がない」と笑いを誘いつつ）、共通点として「みんな価値起点」「ステークホルダーと共創する」「AI時代、人の出番はある」の3つを示して議論に入りました。

問1「変革がうまく進まない。何が大事？」には、塩田氏が「変革プロジェクトの初期コストの約20%は現状調査に使われている。まず自社のビジネスアーキテクチャを知り、同じ絵を見て議論できる共通言語を持つことが出発点」、萩本氏が「大きな絵をコンパクトに描けないのが問題。森を描いて木を狙う」、大西氏が「WBSやスケジュールをきれいに引いても進まない。人の気持ち・意志のベクトルが揃っていないから」と、三者三様の入口を示しました。そこから議論は「共感をどう引き出すか」へ。萩本氏の「論理的に作るほど情報量が増えて破綻する——論理的美の虚像。人のハートをつかんで握手させ、そのうえで小さく作る」、塩田氏の「対立を動かすには強い思いを持つリーダーと、それを伝えるナラティブが要る」、大西氏の「ユーザーストーリーに『〇〇できて嬉しい』と書かせる」、萩本氏の「三菱電機のアーキテクトが言った、嬉しいと書いているうちに嬉しくなる」と、実践知が重なりました。

会場からは3つの質問が続きました。

問1「乗ってこないステークホルダーを、危機感ではなくどう仲間にするか」には、大西氏が「企画部門を囲んで語ってもらい、疑問を付箋で共有したら接続点が見え始めた。接点の場をあえて作る」、塩田氏が「効率化なら危機感の共有、未来の話なら共有された未来イメージと、目的でアプローチ

Activities / 支部活動

■PMI 関西ブランチ × IIBA × SVL コラボイベント 未来の社会・ビジネス価値を描くための「変革」と「共創」のあり方 ～ワクワクを、みんなで語りあおう～ 結果報告

は違う」、萩本氏が「現在の価値・今の延長の未来・あるべき未来の3面で書き出すと共通点が見える」と答えました。「AIは本当に共感できないのか」には、萩本氏が「AIは意思を持たない。未来を描く力は人間にしかない」、大西氏が「共感とは自分の立脚点を持ちつつ相手に寄り添うこと。今のAIは立脚点を持たないように作られている」。

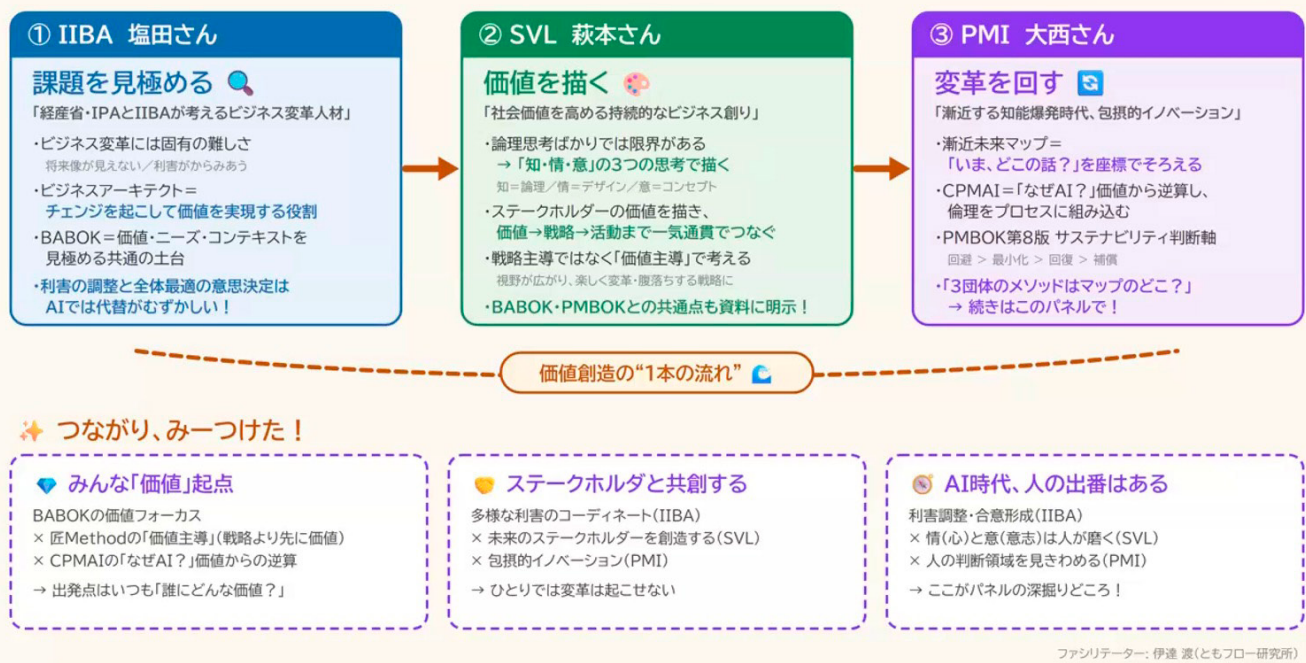
問2「AI時代に人間は何をする？」には、大西氏「エンタメに興じる。だから自分の好き嫌いを知る」、塩田氏「コン

テキストを与えるのは人間。何にチャレンジしたいかを考えるのは人間の仕事」、萩本氏「自分たちは映画監督、スタッフにAIもいる。知の領域は有限、価値の領域は無限」。

問3「経験の少ない若い世代はAI時代をどう生きるか」には、「嫌いなことをはっきりさせる」(大西氏)、「AIの出力に必ず反論を考え、思考停止しない」(塩田氏)、「感性の領域を磨く」(萩本氏)と、それぞれの答えが返り、1時間があっという間に過ぎました。

3つの講演は、つながっている！

パネルディスカッション「変革」と「共創」 | 2026.7.25 PMI関西 × IIBA × SVL



パネル冒頭スライド：3つの講演は、つながっている！

Activities / 支部活動

■PMI 関西ブランチ × IIBA × SVL コラボイベント 未来の社会・ビジネス価値を描くための「変革」と「共創」のあり方
～ワクワクを、みんなで語りあおう～ 結果報告

(6) クロージング・交流会：ワクワクを、みんなで語りあおう

クロージングでは伊達がパネルを「まず見える化から始める」「価値を『嬉しい』という言葉と絵で描き、対立を握手に変える」「未来を描く『意』は人間にしかない」と整理し、「組織に馴染んだ私たちが本当に気づかされるのは新人の意見。AI時代でもそれは変わらない」と添えたうえで、隣の団体に飛び込むコラボレーション自体が新たな価値だと述べました。登壇者からは、萩本氏「AI時代だからこそ、さらに自分をしっかり持たなければいけない」、塩田氏「技術で何を作るかではなく、技術で社会にどんな価値を作るかに仕事の目線を置く」、大西氏「コミュニティを越境する人たちの緩いつながりが、頑丈なコミュニティをつくる。これからも緩くつながってください」と一言ずついただき、「ぜひいろんなコミュニティを越境してください」で本会議を締めくくりました。

終演後は会場近くで交流会を開催し、3団体の参加者が所属を越えて語り合う、まさに「ワクワクを、みんなで語りあおう」の時間になりました。

4. コラボイベント開催を振り返って

「構想半年」で実現した初めての3団体コラボは、企画時に掲げた「3団体の知見が“線”でつながる」を、講演とパネルの両方で体感できる場になりました。塩田氏の「共通言語から始める」、萩本氏の「嬉しいと書いているうちに嬉しくなる」、大西氏の「立脚点を持ちつつ寄り添う」——別々の言葉で語りながら、行き着く先はいずれも「価値」と「人」であり、BABOK・匠Method・PMBOK／CPMAIが価値創造の1本の流れの中で互いに補い合っていることを、あらためて確認できました。

一方で、会場の熱量をオンライン参加者にどう届け、配信からの質問をどう引き出すかは、次回への課題です。今回は、PM3団体が集った2025年10月の「PMわくわくフェス」に続く“越境”の第2弾。関西ブランチでは今後も他団体との共創を通じて、関西からワクワクする未来志向のメッセージを発信していきたいと思います。引き続き、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



3団体パネルディスカッション（左から大西氏・塩田氏・萩本氏）



交流会後の集合写真

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー/ワークショップ

● 法人スポンサー連絡会

- 日時：9月24日(木) 13:30～15:45
- 形式：リアルタイム配信
- 2PDU

● 2026年地域セミナー ～北海道コミュニティからの発信～

- 日時：10月3日(土) 14:00～17:00
- 形式：会場開催(札幌)
- 2.75PDU

● ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2026-2

- 日時：10月24日(土) 13:30～16:30
- 形式：リモート開催
- 2.75PDU

● 転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント

- 日時：11月1日(日) 10:00～17:30
- 形式：会場開催(東京)
- 6PDU

● プログラムマネジメント実践ワークショップ

- 日時：10月2日(金) 9:30～18:00
- 形式：リモート開催
- 7PDU

● 関西ランチPM創生研15周年イベント

- 日時：10月10日(土) 10:00～16:45
- 形式：現地開催(大阪) / リアルタイム配信
- PDUなし

● 2026年地域セミナー ～中国@広島WGからの発信～

- 日時：10月24日(土) 13:30～16:35
- 形式：会場開催(広島)
- 2.75PDU

● ポートフォリオマネジメント実践ワークショップ

- 日時：11月26日(木) 9:30～18:00
- 形式：リモート開催
- 7PDU

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI Japan Festa 2026

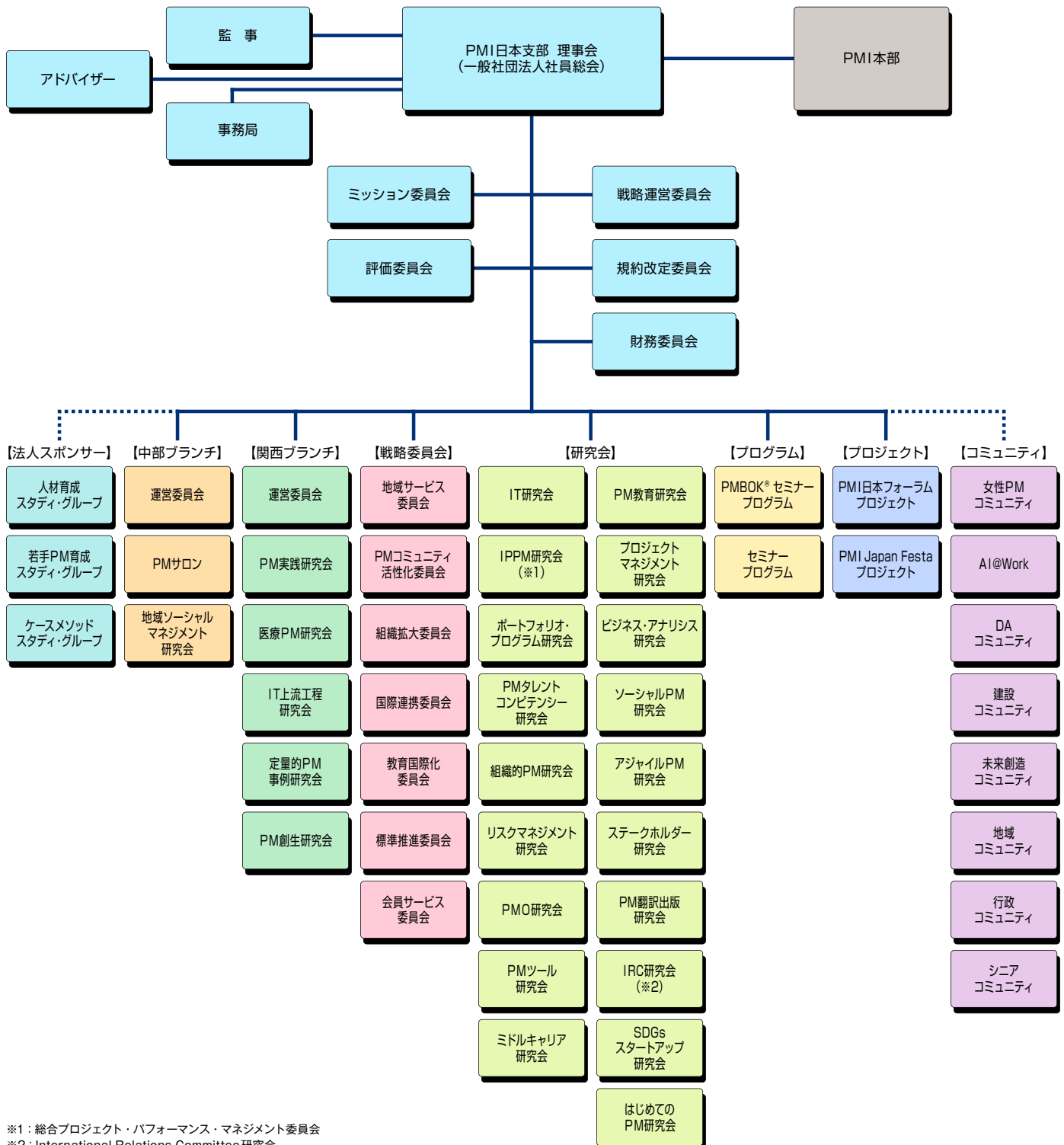
- 会場開催：11月14日(土)
- リアルタイム配信：11月14日(土)・15日(日)
- オンデマンド配信：12月下旬まで

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■支部活動（2026年9月現在）



Fact Database / データベース

■ 理事一覧 (2026年9月末日現在)

会 長	浦田 有佳里	国立開発研究法人 情報通信研究機構
副会長	中 村 亜 子	株式会社パーソル総合研究所
副会長	端 山 毅	株式会社NTTデータグループ
副会長	小川原 陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
副会長	当 麻 哲 哉	慶應義塾大学

(以下、五十音順)

理事	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
理事	石 井 真	キンドリルジャパン株式会社
理事	稲 葉 涼 太	TISI 株式会社／一般社団法人IIBA 日本支部 理事
理事	奥 田 智 洋	株式会社アイ・ティ・イノベーション
理事	金子 啓一郎	プロジェクト・ピープル・パフォーマンス研究所
理事	アンリ 近藤	東京エレクトロン株式会社／ビズフォリオ合同会社
理事	斉 藤 学	スカイライトコンサルティング株式会社
理事	坂 上 慶 子	株式会社 日立アカデミー
理事	杉 原 秀 保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理事	谷 徹 也	損害保険ジャパン株式会社
理事	谷 口 和 行	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理事	羽佐間 一潮	特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
理事	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理事	藤 原 慎	株式会社NTTデータ先端技術
理事	松 本 弘 明	株式会社ローソン銀行
理事	森 田 公 至	株式会社クオオンツ・コンサルティング
理事	除 村 健 俊	サイバー大学
理事	渡辺 恵士朗	株式会社グローバル・パートナーズ・テクノロジー

■ 最新の会員・資格者情報 (2026年8月31日現在)

会員数 (人)	
PMI本部	日本支部
822,361	8,293

PMP® 資格保有者数 (人)	
世界全体	日本在住
1,736,204	59,587

なお、日本や各国のPMI認定資格者数はPMI本部Webサイトの Certification Registry でご覧いただけます。

<https://www.pmi.org/certifications/certification-resources/registry>

■ 行政スポンサー (2026年9月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市
- 広島県 福山市
- 広島県総務局 県庁情報システム担当

■ 法人スポンサー 一覧 (116社、順不同、2026年9月現在)

- TISI 株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- キヤノン I T ソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータグループ
- プラネット株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード合同会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- BIPROGY 株式会社
- JBCC 株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社N T T データ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社 TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A 株式会社
- ロジスティードソリューションズ株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- SOMPO システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&AD システムズ株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート
- JFE システムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社

Fact Database / データベース

- 株式会社NTTデータ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NEC ソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- TOPPAN 株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI 株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ
- 株式会社PE-BANK
- 三菱電機エンジニアリング株式会社
- アイエックス・ナレッジ株式会社
- キンドリルジャパン・テクノロジーサービス株式会社
- ネットワンシステムズ株式会社
- PMアソシエイツ株式会社
- Asana Japan 株式会社
- プラニスウェア・ジャパン株式会社
- 株式会社ピーエスシー
- DXC テクノロジージャパン株式会社
- 株式会社SCC
- テクノシステム株式会社
- 株式会社MSOL Digital
- 株式会社エイジレス
- 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- INTLOOP Project Mangement 株式会社
- 東京海上日動システムズ株式会社
- ディップ株式会社
- 日本アタウェイ株式会社
- 株式会社グローバル・パートナーズ・テクノロジー
- 株式会社ビーワークス
- ジェネシス株式会社
- 株式会社Necmos
- monday.com 株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (55 教育機関、順不同、2026 年 9 月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科 および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室

Fact Database / データベース

- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室
- 名古屋工業大学 社会工学科 経営システム分野 瀧口研究室
- 日本経済大学 大学院経営学研究科
- 大正大学